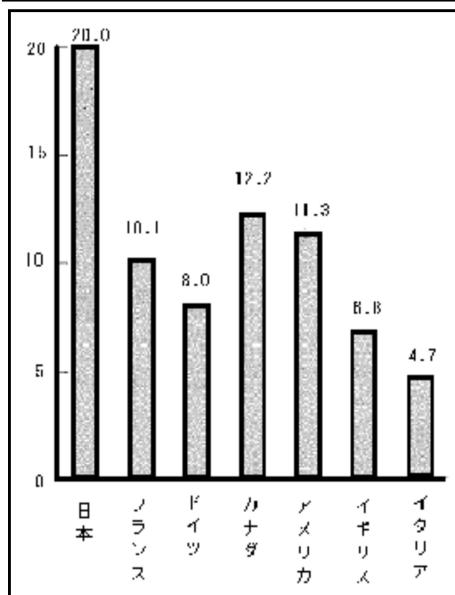


深刻な若者雇用・止まぬ心の病

厳しい実態へ抜本的な改善が急務

先進7ヶ国 15~34歳の自殺死亡率



資料1 「死亡率」とは人口10万人あたりの死者数(年間)をいう。

=内閣府 平成26年度版自殺対策白書より

精神障害で過去最多の請求

過去3年間の疾病状況を見て

政府は、2014年版の自殺対策白書を公開しましたが、若者の自殺は世界的に見ても異常に高い水準となっています。

日本の若者の自殺発生率は人

口10万人あたり20人で、先進国中1位、2位のカナダが12.2人である事を考えると非常に高い値となっています。(資料1)

この背景には、日本では非正規雇用が増大していることがあります。大学や高校を卒業した

社会の将来を託すべき青年の働き方をめぐる情勢は、非常に厳しい状態にさしかかれています。若者の雇用が重大であることは、世界で共通していますが、経済危機が深刻化する中で、若年者への職場での対応が様々な面で深刻になっています。しかも、最近では名だたる大企業や飲食チェーン店など、職場で長時間労働やいじめなどによる心の病も止まらなくなっています。学校現場でも新採用になって1、2年の若い先生方が学校にじめず病休に入るケースが増加しています。

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ
<http://kakyoso.com/>

香川の教育をよくする県民会議
教育署名の提出が迫っています。
全国署名の東京での集約集会は、1月16日(金)になりました。1月9日(金)の人事対策会議を最終締切とします。

2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
41	37	46	50	42	19	42

3年度、請求件数は過去最高、支給件数も2番目に多くなっています。(資料3)

香川県の教職員の実態はどうでしょう。上の数字は、香川県内の病院休職者の推移ですが、年にによって多少の差はあるものの、毎年40人から50人が病気休暇を取つて休んでいます。これが分かります。

その後、正規労働者として就職できるものが減少し、初職から非正規労働者としてしか就職できない人が増えており、その数はこの20年間の間に、13.4%→39.8%になり、倍以上にも達しています。(資料2)

学校現場においても、採用試験に合格せず、講師で何年も勤めている人がいます。

この背景には、子どもたちを育てる仕事を続けていく上で、児童・生徒との関係がうまくいかなかつたり、

親からの声に充分応えきれなかつたりする中で、体の調子を崩してしまった先生もいます。

子どもたちによる教育を行ってきました。

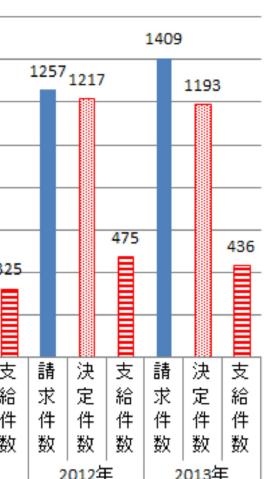
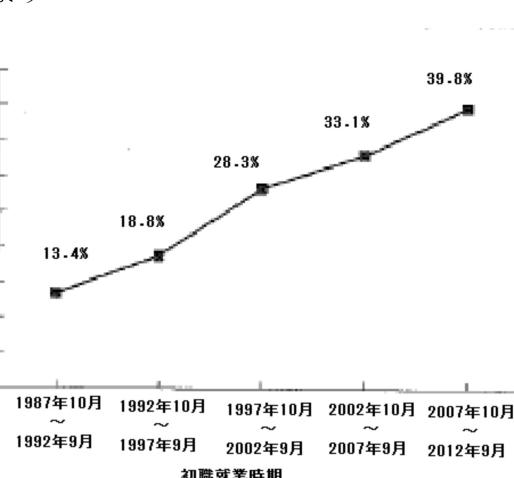
子どもたちが元気に学校に通うことはとても大切なことです。

香教組には、若い先生から「新採担当の先生から何度も『指導案を書き直せ』と言われ、『『新採なのだから、どうして良いか分かりません』と言われた』などの電話がかかってきます。年配の先生方より早く帰るなどは不謹慎です」と言われたことがあります。

これからという若い先生方が、体の調子を崩したり精神的に病んでしまうことがあります。

至らぬ所があつても成長過程であることを理解し温かく見守ることが大切ではないでしょうか。

みると、正社員でも非正規でもメンタル面を損なう人が増加しており、精神障害について、精神障害に関する労災補償件数を見ると、201



資料3 精神障害に関わる労災請求・決定件数の推移

地方切り捨ての中

知り合いの先生と話をしていて、「私の体が潰れるのが先か、心が潰れるのが先か、それとも学級が潰れるのが先か」という様な感じだと話をされていた▼冬休みには少し家でのんびりとする時間が持てればと思う▼現場の先生の大変さから、こんな歌が、はやつているようだが、最近お笑い芸人の「どぶろつく」の歌が、はやつていて、これまでの先生の大変さから、こんだけでもしかしてだけ、もしかして黒板に貼っている資料が破られ、けれど、おれが潰れるのを待つことだらけ! そういうことだらけ! ☆

小黒板

新しく採用になる先生が増え、年配の先生方がかなり無理をして大変な学年や

先生方が一生懸命指導しているのに、子どもたちは何食わぬ顔で、言葉尻を捕まえて反発する▼「ここで叱つておかないと」と大きな声を出すと逆ギレされて騒ぎだす▼「このままで、退職はおろか3月まですら持たないのではないか」。そんな逃げ場のない「背水の陣」状態で、学級經營をしている先生方もいるのではないだろうか▼いよいよ師走に入つて3月まであと50日と少しである。どこかでゴールを決めて走らないと疲れてしまつて動けなくなりそうだ▼先日、走に入つて3月まであと50日と少しである。どこかでゴールを決めて走らないと疲れてしまつて動けなくなりそうだ▼

先生方が増えて、年配の先生方が増えてきているようだ▼先生

高松市が夏休みの短縮を検討

教育長は、現場の声をどの程度聞いたのか？

12月10日、高松市教育長は自民党の市会議員の代表質問に対して「来年度からすべての小中学校におきまして、夏季休業日を一週間程度短縮し、二学期の開始を早める方向でその準備を進めて参りたいと存じます」と回答しました。

香教組は高松支部が、12月の交渉でこの問題について要求項目にあげて話し合いましたが、回答は「夏休みの在り方については土曜学習研究指定校事業の成果と課題を踏まえ、検討中である」との回答であつただけに、拙速な教育長の答弁はどうかと思われます。

夏休みの短縮は子どもたちのためになるのか

12月10日の高松市議会で、自民党の三笠議員・森川議員など

森川議員の代表質問から

本市では「土曜学習研究指定校事業」を3校で実施し、生徒の学習意欲を育て、家庭

学習の習慣化など基本的な学習習慣の確立と学力の定着をはかるなど、それらの課題の解決に取り組んでいると認識しておりますが、果たして十分な効果が得られているのでしょうか。

現行の学習指導要領は、以前の学習指導要領よりも指導内容が増加しているため、通常の日の授業時間数を増やしたり、学校行事の精選を行う等、各小中学校では工夫をします。このようない状況の中、学力の二極化に対応し、学習内容の定着を図るために、ゆとりをもつて学習できる取り組みとして夏休みを短縮して授業時間数を確保し、学力向上

から次のような内容での質問がありました。

を目標とする市町も出てきています。

本市も、学校生活の充実を図るために、土曜日の活用が有効か、夏休みの活用が有効なのかを判断する時期に来ており、教員の業務が多忙化すること等々の課題から、夏季休業日の活用を検討してほしいとの意見も頂いているところです。

実施校における生徒や保護者、教員に対するアンケート調査や聞き取り調査によりますと、生徒からは「学力向上に役立っている」保護者からは「土曜日の過ごし方が良くなっている」教員からは「学習の習慣づけや動機付けになつていて」など肯定的な回答が多いことから、本事業を通じて一定の成果が上がつたものと認識いたしております。

一方、土曜学習が希望者による参加でありましたことから、学力を一掃定着させたい生徒の参加が充分ではなく、当初の目的としておりました学力の二極化の解消には至っていないことや、実施に際して部活動との時間的な重なりや指導する教員の負担が大きいことが課題として上

笠議員の代表質問への回答

松井 等教育長の答弁 (三)

がつているところでございま

す。

土曜学習の成果を検証する

中で、学校や保護者からは、過ごし方が良くなっている

という回答が多数あつたという

なかつた▼保護者から「土曜日が、1/4しか来ていないのにこの声が本当に多数の親の声と言えるのだろうか▼学力の二極化を解消するというが、夏休みも年休はおろか特休も消化しかねているのに、夏休み短縮は、より教員の負担になるのではないか▼夏休み明けに、体の調子を崩し、保健室に行く子どもたちばかりいる。空調がついた

授業に集中できるのか▼学力の二極化は、経済格差が学力格差を生んでいると指摘されている。単純に「授業時間を増やせば学力の二極化が解消される」などとは言えない▼「土曜授業」や「夏休みの短縮」で学校に子どもたちを来させることが、松井

委員会と致しましては、土曜学習のねらいである学力の二極化を解消するため、土曜授業へのシフトではなく、来年度から全ての小・中学校において、夏季休業日を一週間程度短縮し、二学期の開始を早める方向でその準備を進め参りたい

香教組としての見解

からといって子どもは、本当に授業に集中できるのか▼学力の二極化は、経済格差が学力格差を生んでいると指摘されている。

教育長の言う「学ぶ意欲を高め、家庭学習の習慣化など、基本的な学習習慣を確立」することには直接つながらない▼学力の二極化を解消するためには、学力が低位なままに置かれ、学習意欲を失わされている子どもたちを勇気づけ、学習への自信を回復させる指導の工夫しかない▼

先生方がそういう指導の工夫ができる余裕を持つ条件整備こそが大事なのではないか。

